

かぶ石のまち

新島コーガ石建造物写真展

平成14年8月

新島抗火石建造物調査会

写真 清水 襄

コーガ石の建物

概要

伊豆諸島新島村では、本村を中心に、島内向山で採掘されるコーガ石を利用して多数の構築物がつくられてきました。コーガ石は、旧来より「浮ぶ石＝かぶいし」と呼ばれ、その語源は石でありながら水に浮かぶことからそう呼ばれてきたとも伝えられています。

コーガ石は、正式には黒雲母流紋岩と呼ばれ火成岩の一種です。島南側、向山を中心に形成された火山により噴出された溶岩が冷却し、コーガ石層として形成されました。冷却時に多くの気泡を取り込んだ状態で硬化したため、石材内に多数の空泡が存在し、その結果断熱性能が高く、耐火・耐酸性にも優れた特徴を持っています。近代期には、工場の煙突内壁材や化学肥料製造場等に多く使用され、コーガ石の採掘は島の基幹産業ともなっていました。

一方、島内ではその特徴である低比重（0.8～1.8）、耐候・耐火性などを活かして、竈や天水受け・たい肥槽・石塀など島民の生活を支える素材として様々に利用されてきました。しかし、最も多く利用されてきたのは建築材料としてでした。耐水性能に優れ、軽量であることから屋根や外壁材として、大火から居住域を守るための建築材料として利用されてきたのです。また、コーガ石はセメントとの相性が非常に良く、モルタルを接着剤として簡単に石同士の接合ができ、高い強度を得ることができる点も大きな特徴です。セメントの利用は、およそ大正時代頃から昭和初期には普及し始めたものと思われそうですが、最も普及したのは戦後です。セメントを用いることにより、簡単に建物を構築することができるため、小規模な構築物（石塀・付属屋・家畜小屋等）は専門の石工を要せず、居住者自らが施工する、まさにハンドビルドにより多くが建てられ、現在も続いています。

一方、コーガ石を扱う独自の石工集団も出現しました。その多くは戦後の昭和50年代頃まで活躍し、村内のみならず東京やその近郊まで出かけ施工しています。もちろん村内の石倉や水産加工場、オーヤ（主屋）インキョ（隠居屋）等もこれら石工集団により施工されてきたものです。石工集団は短期間にその技術を発展させてきたようで、加工しやすい石をさらに詳細に加工する道具を考案しながら、石製であることを疑わせる程精緻な施工技術を育んできました。長栄寺の門や、十三社神社両脇社等はその好例で、独自の石造技術を今に伝えています。

現在の状況

新島防火石建造物調査会は、平成11年10月より、年2回程の調査を継続して実施し、平成14年5月の調査で6回目を数えました。

調査当初に実施した所在調査により、本村内の約270件に対象構築物が存在し、そのうち建築物は約290棟程を確認することができました。内訳は、オーヤ（主屋）・インキョ（隠居）・離れ・店等居住を主目的とする建物58棟、石倉や物置・工場等が89棟、風呂や外便所・水屋等が73棟、家畜小屋・肥料小屋等25棟、薪小屋や塩倉・いぶし小屋・天水受け・防火水槽等17棟、祠・堂宮建築・目的不明建物等36棟、その他となっています。一般的に付属屋と呼ばれる建物が多くを占めていますが、島ではオーヤと呼ばれる主屋や隠居等の住居で、屋根及び外壁部分全てがコーガ石により造られている建物が4棟現存しており、貴重な建物といえます。

建物の構造を見ると、外便所等の小規模な付属屋は外壁を石積みとし、石梁、石葺きの屋根とするのに対し、梁行きの大きな石倉等は木梁或いは鉄筋コンクリートの梁が架けられています。一方、先のオーヤや隠居・店等は木の柱と梁による木骨造としたうえで、その外に石を張り付けたり、石葺きとする工法が用いられています。

外観を見ると、石倉等の付属屋は伝統的な切り妻造りの屋根形式が多いが、オーヤや隠居・店等は寄せ棟・入母屋造り屋根、また得意な形式としては、表面写真に見られるようなポールト状の屋根にコーニスを廻したり、バラベットの付け陸屋根風の外観を持つ建物も見られます。

さてこれらの建物の建築年代であるが、建築年代を示す資料は少なく多くは伝承による推定であるが、調査建物中最も古い時期の建築は約160年程前との伝承が残る石倉です。明治期では5棟、大正期は6棟、戦前に建てられた建物は15棟となっています。

建築年代については、今後さらに調査を進め、技術的変遷や建物の意匠等との関連性を検討していく予定です。

おわりに

日本国内を見ても、これほどの石造建築物が集中して現存する地域は珍しく、調査をとおして改めてその貴重性を痛感しているところです。この貴重な石造文化を長く継承していくためにも、我々の活動が村民の皆様の理解を得て実質的且つ立体的な保存活動に発展させたいと思います。

「かぶ石のまち」をご覧頂いた多くの方々に、この趣旨をご理解いただき、支援を頂きますようお願いいたします。

文末ではございますが、私たちの調査を快く受け入れていただいた島民の皆様、新島村教育委員会及び新島村博物館に御礼を申し上げます。



本村4丁目1番付近の付属屋（肥料小屋・外便所・石倉・天水受け・風呂が並ぶ）